

第6回 基礎講座

場の特性を捉え、プログラムを構築する ～関係性を動かす場—自分の定規～

開催日時：2025年11月7日（金）18：00～20：30

アーツカウンシル東京 会議室 東京都千代田区九段北4丁目1-28

講師：大巻 伸嗣 (美術作家)



講座のねらい

多様な地域でプログラムを展開するアーティストの視点を学び、アーティストとステークホルダーとの共創のプロセスを理解する。

講座の内容

1 経歴紹介

森美術館や国立新美術館などでの展示作品を例に、制作に向けてのリサーチや身体性といったアーティストとして大事にしている考え方を紹介

2 ワークショップで大切なこと

初めて実施したワークショップを振り返りながら、アーティストとしてワークショップをどのように捉えているかを解説。決められた定規に当てはめるのではなく、他者との関わりの中で、自分自身の物差しや新たな価値観をつくり出すことなどポイントを整理

3 事例紹介

さまざまなコミュニティにおいて実践してきた多様なワークショップの事例から、「大人/子供」の括りではなく「人」としてつながり、新たな価値観や関係性を生み出していくようにファシリテートするアーティストの視点を解説

4 グループワーク

受講生が、「ワークショップにおいて大切にしたい要素」をキーワードとして大きな紙に書き出し、それぞれの経験や関心の違いを可視化。その後、グループ内で各自が選んだキーワードを線で結び付け、その関係性を踏まえながらワークショップを構想し、グループごとに発表

5 講評

グループごとに対話をしながら大巻氏が講評を行い、発想が転換するように導き、掘り下げながら、アーティストと一緒にワークショップをつくり実現させるプロセスを解説。個々の経験を共有し、それぞれの「人」としての視点と、それを認める大切さを強調



受講生の声（一部編集しています）

ワークショップの定義について『常識をひっくり返す』や『人との関わりで自分を見つける』などいろいろ教えていただき、学びが大きかったです。

プログラムを構築する上で、普段「子供」として捉えてしまう固定観念から解放し、一人の「人」として見ることの重要性に改めて気づかされました。

アーティストと協働する上で、一面的な思考に留まっ
てはいけないということに気づいた。リサーチを重ね、多
面的にワークショップの意義を構築していきたい。

「一度完成したものをあえて壊し、そこから何が見える
か、新たな視点を探ることの大切さ」というお話が非常
に印象深かったです。

